

2019年 春学期

社会科・公民科教育法 1 第3回

**社会科基礎論(2)：
ダイヤモンドランキングとレンガの
ゲームを通じた社会科授業観の吟味**

今日の授業の目次

フックトークの時間(15分)

【授業】

- 1. ダイヤモンドランキングゲーム(個人)**
- 2. ダイヤモンドランキングゲーム(グループ)**
- 3. レンガ造りのアクティビティ**

振り返りジャーナルの時間

今日の授業の目的共有

- 1. 自分の中にある、授業作りの軸にうっすら気付くこと。**
- 2. 他者と意見交換することで、軸を明確化させていくこと**

この授業の目指すコンセプト

1. 学びの「遊び感」を大切にする。
2. 学びの目的意識(≒納得感)を共有することを大切にする。
3. まだ知らない自分自身を再発見し続ける。振り返る。
4. 他者から学ぶ(チームを組む)×リットを実感する。

自分でも気を付けます。

ブックトーク(15分間)

1. 斉藤の本紹介(1分)
2. 期限までに発表者の本紹介内容に対して、感想レポートを提出してください(200字とオススメ本)
3. 今週の「ブックトークの情報共有ネットワークの構築」を配ります。

今日の斉藤の一冊

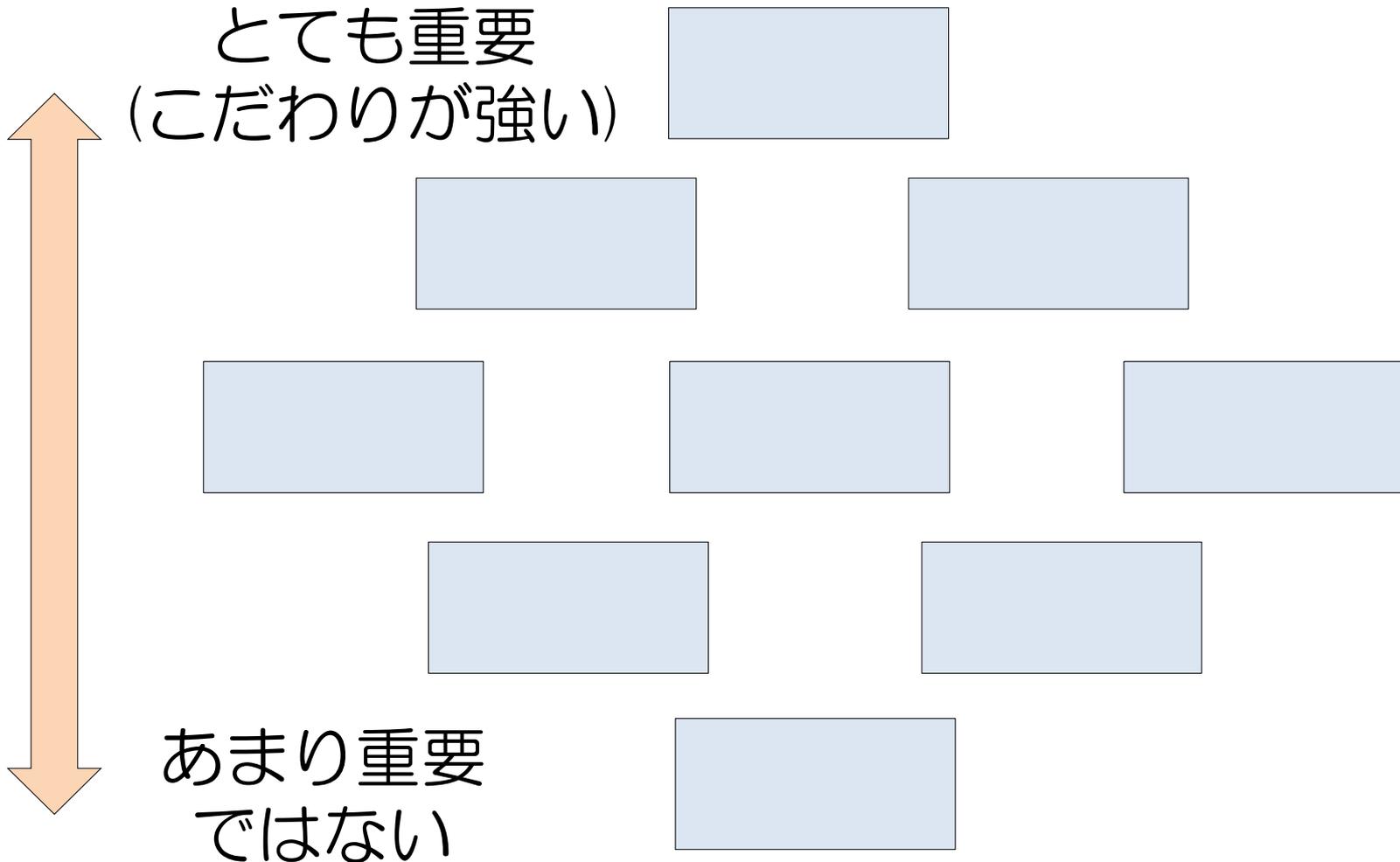
本の表紙
(授業時のみ)

佐伯胖(1995)『「わかる」ということの意味 新版』

授業やいます

**あなたが目指す社会科授業で
育てたい力とは？**

ダイヤモンド・ランキング



ダイヤモンド・ランキング

あなたが目指す社会科授業で育てたい力とは？

- ①社会に出て恥ずかしくない最低限の教養
- ②図表・資料を読み取る力を付ける
- ③異質な他者に対する寛容な精神をはぐくむ
- ④騙されないための詳しい知識を獲得する
- ⑤国を愛する心をはぐくむ
- ⑥社会の一員としての感覚を養う
- ⑦人文・社会諸科学の科学的な理論・解釈を理解する
- ⑧物事を見るための批判的な思考力を育てる
- ⑨自分の意見・解釈を主張する力を付ける

ダイヤモンド・ランキング(前編)

1. 【個人作業編】

5分間で自分が思うダイヤモンドランキングを組み立てる。

2. 【話し合いの準備をする】

- グループを決める
- 各グループの伝達役1人、司会者1人決める。

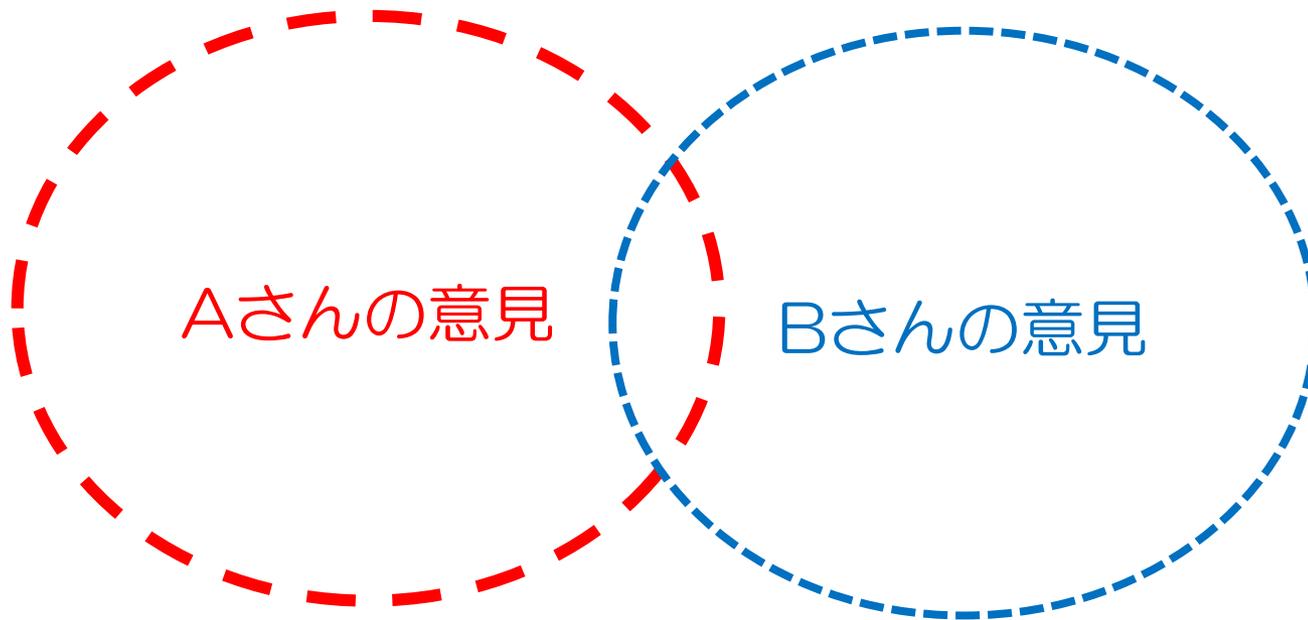
3. 【話し合い】

20分間でグループでのランキングを作る。

(できる限り、全員が納得できる組み合わせを探る)

※テキトーな感じで合意せず、ある程度粘り強く話し合ってほしい。

【余談】合意形成の7十



民主的な関係作り > 合意を達成すること

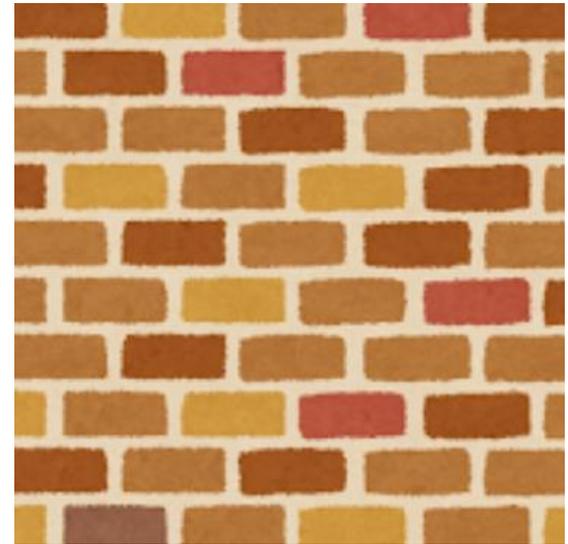
何に合意できないかが分かることこそ、議論する意味でもある。
合意の名のもとに、個人の意見を押しつぶす危険性に目を向けたい

ダイヤモンド・ランキング(後編)

1. 各グループの伝達役以外は、手分けをして他のグループの結果を聞いてくる。伝達役はその場に残って、他のグループの人に自分たちのグループのランキングの意図を説明する。
2. 他のメンバーはグループに戻って、伝達役に他のグループでの発見を報告する。

レンガの壁づくりのルール

1. ワークシートの枠内に、自分自身の「教えることに関するレンガの壁」を作ります。(時間は10分程度)
2. レンガに見立てたブロックを手書きし、積み上げていきます。
3. あなたにとって最も重要な考え方・こだわりが書いてあるレンガが一番下の段に来ます。
4. 下のレンガと関連するレンガを上に乗せていきます。
5. ダイヤモンドランキングの選択を活用しても構いません(任意)



レンガの壁づくりのイメージ

例えば、Aさんの場合・・・

資料を読み取り、探す
上での最低限の知識

資料の内容に
疑問を持つ力

自分で情報収集
を出来る力

批判的な思考力を
育てたい

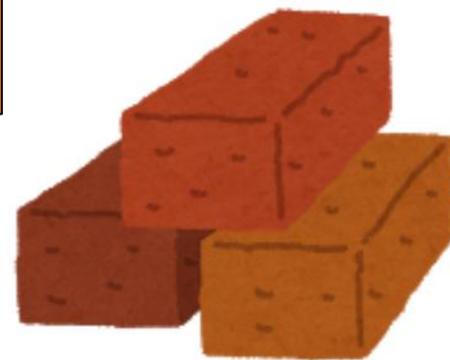
開かれた、平等な
教室の雰囲気大切にしたい

自分の意見を主張
する力を育てたい

異質な他者や多様性へ
の寛容な気持ち

社会の一員とし
ての感覚

個人の権利を尊重
するという意識



「自分にとっての」授業のねらいにこだわること

授業作りをする際に、教科書や学習指導案のテーマ・内容だけに頼るのではなく、

自分なりの興味関心やこだわり、「授業はこうあるべき」といった個人が持つねらいを深めて議論していくことが重要とされている。

本の表紙
(授業時のみ)

T・ソートン著：渡部他訳
(2012)
『教師のゲートキーピング
—主体的な学習者を生む社会科カリキュラムに向けて—』

エイム・トーク = 狙いの議論

5. 次回までの課題についての説明(重要)

GW明けの2週間後の授業までに、配布した授業記録「農業に“頭”はいらないのか」(小学校5年・社会科)の資料を読んで、そこに出てくる子どもたちの学びが深まっているのかについて、皆さんの意見を述べて下さい。

詳しくは、別添の資料を読んでください。

「振り返りジャーナル」の時間

「前回の模擬授業は、今日浮き彫りになった皆さんの授業観を達成できるようなものになっていましたか。」

※他のテーマで自由に書いてもらっても、全く問題ありません。
今書きたいことを優先してください。

今回参考にした主な本の紹介

開発教育協会(2012)

『開発教育ハンドブックー
参加型学習で世界を感じる
[改訂版]』

本の表紙
(授業時のみ)

T・ソントン著：渡部他訳
(2012)

『教師のゲートキーピングー
主体的な学習者を生む社会科
カリキュラムに向けてー』

本の表紙
(授業時のみ)

F・コルトハーヘン著：武
田信子他訳(2010)『教師
教育学ー理論と実践をつな
ぐリアリスティック・アプ
ローチー』

本の表紙
(授業時のみ)

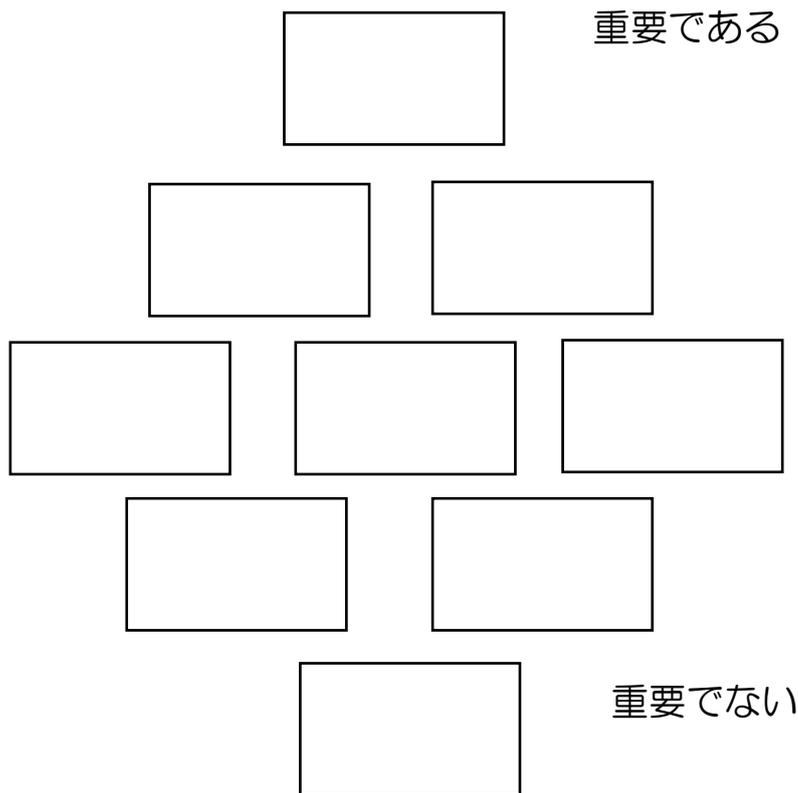
第3回 社会科・公民科教育法 1：社会科基礎論(2)： ダイヤモンドランキングとレンガのゲームを通じた社会科授業観の吟味

氏名 () 所属学部・学科 ()

1. ランキングを考える

①個人編

○個人のランキングを決めた根拠



選択肢一覧(スライド資料より)

ダイヤモンド・ランキング

あなたが目指す社会科授業で育てたい力とは？
(子供に育てたい能力・資質のようなイメージで)

- ①社会に出て恥ずかしくない**最低限の教養**
- ②図表・**資料を読み取る力**を付ける
- ③異質な他者に対する**寛容な精神**をはぐくむ
- ④騙されないための**詳しい知識**を獲得する
- ⑤**国を愛する心**をはぐくむ
- ⑥**社会の一員としての感覚**を養う
- ⑦人文・社会諸科学の**科学的な理論・解釈**を理解する
- ⑧物事を見るための**批判的な思考力**を育てる
- ⑨自分の**意見・解釈を主張する力**を付ける

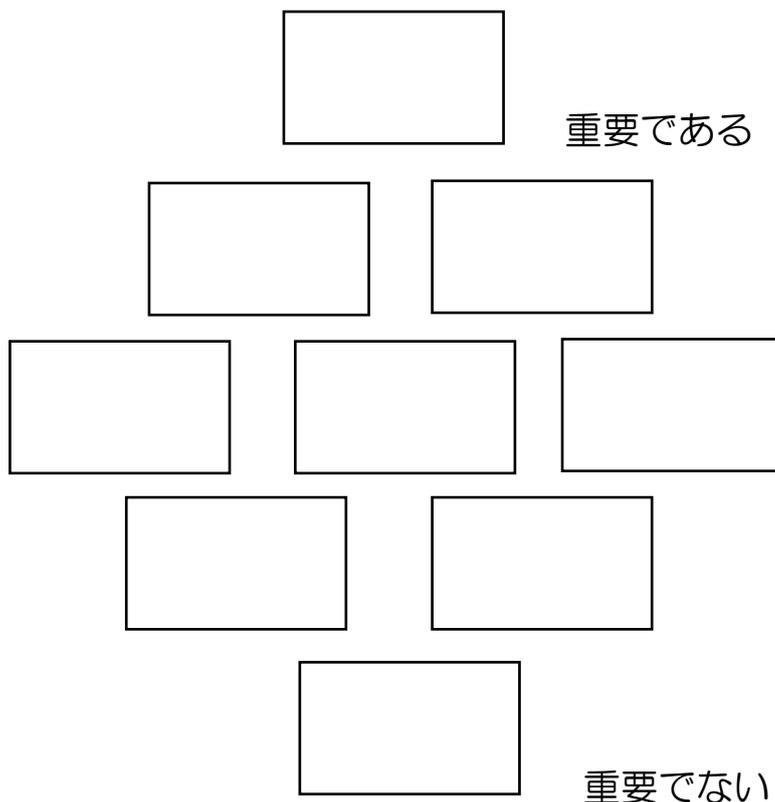
②グループ編

ペアを通して話したこと、考えたことをメモ

ダイヤモンド・ランキング

あなたが目指す社会科授業で育てたい力とは？
(子供に育てたい能力・資質のようなイメージで)

- ① 社会に出て恥ずかしくない**履修限の教養**
- ② 図表・資料を**読み取る力**を付ける
- ③ 異なる他者に対する**寛容な精神**をはぐくむ
- ④ 騙されないための**正しい知識**を獲得する
- ⑤ **国を愛する心**をはぐくむ
- ⑥ **社会の一員としての感覚**を養う
- ⑦ 人文・社会諸科学の**科学的な理論・解釈**を理解する
- ⑧ 物事を見るための**批判的な思考力**を育てる
- ⑨ 自分の**意見・解釈を主張する力**を付ける



2. グループの情報収集

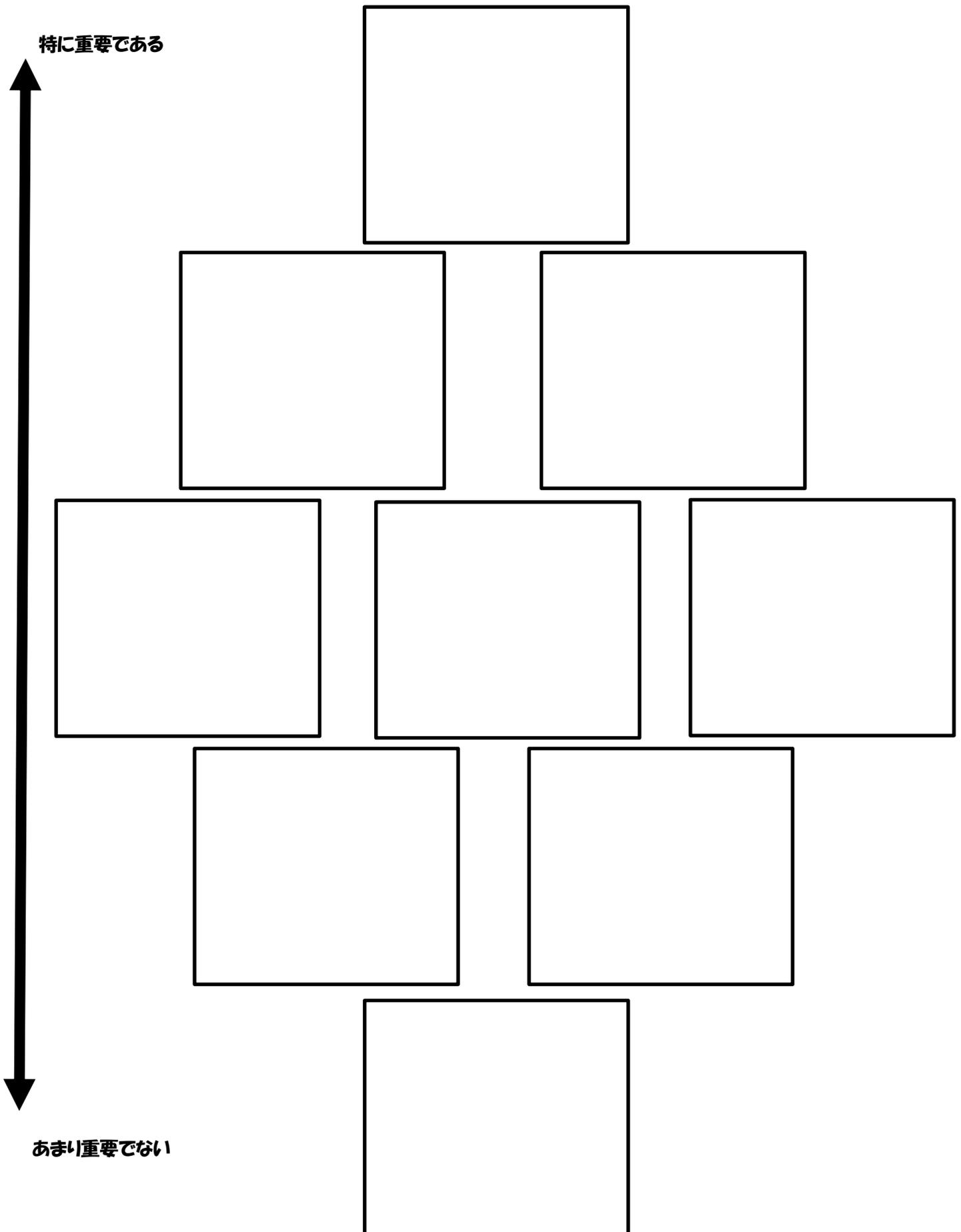
グループの他の人の意見を聞いて、「これはグループで報告したい」と思ったコメントをここにメモする。

3. 自分自身の「教えることに関するレンガの壁」

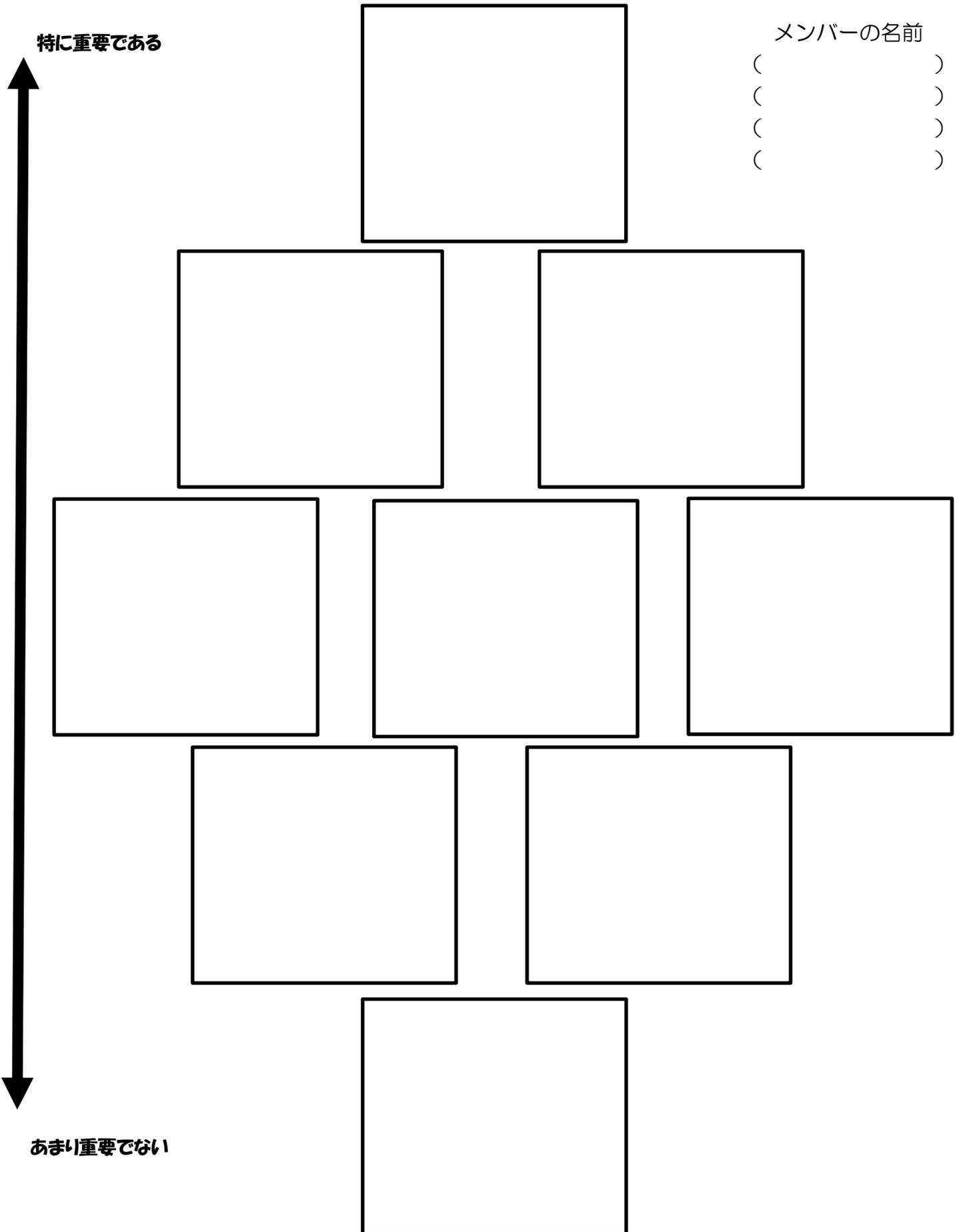
手書きのレンガで良いので、下から積み重ねてみましょう。



ダイヤモンドランキングで使う枠組み(個人用)



ダイヤモンドランキングで使う枠組み



2019. 4. 24・25日

【課題の説明】 第3回の社会科・公民科教育法1の課題について

提出日：第4回の授業時

1. 課題の趣旨

GW明けの2週間後の授業までに、配布した授業記録「農業に“頭”はいらないのか」(小学校5年・社会科)の資料を読んで、そこに出てくる子どもたちの学びが深まっているのかについて、皆さんの意見を述べて下さい。

その際に、以下の4点に留意してください。

一点目は、皆さんの解釈をする際に、「長谷川君」に焦点を当てて欲しいということです。焦点を当てた上で、そこでの学びが深まったといえる or それほど深まっていないのか、という理由について、あなたの意見を述べて下さい。

第二に、意見を述べる際の根拠を明確に示すようにしてください。今回で言えば、子どもの発言や書いたデータということになります。どこの記録とどこの記録を比較した時にそう言えるのか、どのタイミングで変化した可能性があるのかなどについて、できるだけ客観的に書いてほしいと思います。

第三に、文章内に登場する教師の解釈や意図について、疑いの心をもって読むようにしてください。なぜならば、これらの解釈は楽観的に描かれている可能性があるからです。生徒の発言や文章を読んで、あなた自身が思ったことを書くようにしてください。

第四に、あなたにとっての「学びの深まり」とは何を意味するのかについて言及するようにしてください。率直に言って、何時間も授業を受ければ、子どもにとって知らなかったことを知ることになるので、知識は増えます。では、知識が増えれば学びが深まったといえるのかといえば、私はそうではないと思います。皆さんの経験的に、本当に学びが深まったと思えた瞬間は、人生の中で限られた瞬間ではないでしょうか？安易に「学びが深まった」という結論に至るのではなく、あなた自身にとっての「学びの深まり」とはそもそも何なのかについて、しっかりと考えてください。

ちなみに、次回の授業では、斉藤は「学びがそれほど深まっていない」という立場に立って主張しようと思っています。

「学びがそれほど深まっていない」を選ぶ人も、安心してその選択肢を選んでください。

2. 提出するレジュメのポイント

- A4用紙1枚程度。
- 名前を必ず書くこと。
- 最初に、長谷川君の学びは深まっているか or それほど深まっていないのかについて、のあなたの結論となる意見を書いてください。
- その上で、あなたの主張を裏付ける根拠として、詳しい子どもたちの発言記録・文章を提示してください。

3. 本課題の評価の規準・基準

評価	文章表現力	主張の明確さ	根拠に基づいていること	学びの深まりについての言及
良い	<ul style="list-style-type: none"> 第三者が読んでも非常に読みやすい文章で、誤字脱字・改行等のミスもない。 	<ul style="list-style-type: none"> 長谷川君の学びが深まっているのか、それほど深まっていないのかについて、はっきりと自分の立場を表明している 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者が見ても説得的なぐらい、客観的なデータを幾つも提示している。(ページ数の引用含む) 教師の解釈などに対しても、データの批判的考察もなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 何をもって学びが深まったといえるのかについて、自分なりの明確な見解を示している。
普通	<ul style="list-style-type: none"> 誤字脱字・改行等のミスがない。 	<ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者が見ても説得的なぐらい、客観的なデータを幾つも提示している。(ページ数の引用含む) 教師の解釈などに対して、データの批判的考察がなされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 大まかな学びの深まりにしか論じておらず、データとの整合性がはっきりしない。
良くない	<ul style="list-style-type: none"> 誤字脱字や改行等のミスがある。 資料のビジュアル面で難がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 長谷川君の学びが深まっているのか、それほど深まっていないのかについて、やや不明瞭な主張になっている 	<ul style="list-style-type: none"> 客観的データの列挙自体が不足している。 どこの発言を指しているのか分かりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びの深まりについて、そもそも自分の考えを書けていない。

1. 紹介する本

佐伯胖(1995)『「わかる」ということの意味 新版』岩波書店。

2. 報告者

斎藤仁一朗・課程資格教育センター教職研究室

3. 本の要約(300字程度)

正解が言えたからと言って分かったとは言えない。人は正解に反するような事例と出会い、悩み、他者と対話をしながら追究する作業をすることを通して、「納得」するのであり、絶えず「わかり直していく」のである。そして、教師自身も正解の保持者・伝達者ではなく、「わかろう」「わかり直そう」とする文化的実践の参加者である点は、生徒と全く変わらない。著者はこのように考えます。

著者は特定の尺度から「できる・できない」を断定する評価観を批判します。それは、学校以外のどこかで生徒にも必ず得意分野があって、「学校の〇〇のテスト問題が解けない」という現実には、単にその得意分野とテスト問題を繋げて考えられていないからに過ぎない、という立場だからです。分かるという作業は、現実世界のAの出来事と学校で学ぶBのことが同じ問題であるということに「わかり直す」ことである。それは大人も同じである。本書にはそのような論点が示されています。

4. 本の感想(400字程度)

この本を見ていると、「わかる」ということの意味が実に奥深いものであり、ある意味で正解がないこと、絶えず追究し続けて行かないといけないことだということが分かります。同時に、教師は何でも知ったような顔をしないでいいのだと思わされる。教師自身が真の納得を求めて、追究者になってこそ、皆が追究できるのだと思わされます。

この本のゆったりとした学び観の背景には、やはり生涯学習的な発想が基盤にあるように感じました。人間は一生学び続ける。そうだとしたら、学校は何をするべきか？細かな知識を伝達して、出来た・出来ないの差を測る(査定する)より、わかることがいかに難しいか、わかろうとすることがいかに楽しいかを実感することが大切ではないか。そして、それは人生においても同じではないか。

著者自身が納得を求めて考えていることがよく伝わってくる本でした。おすすめです。

5. 本の表紙

本の表紙
(授業時のみ)